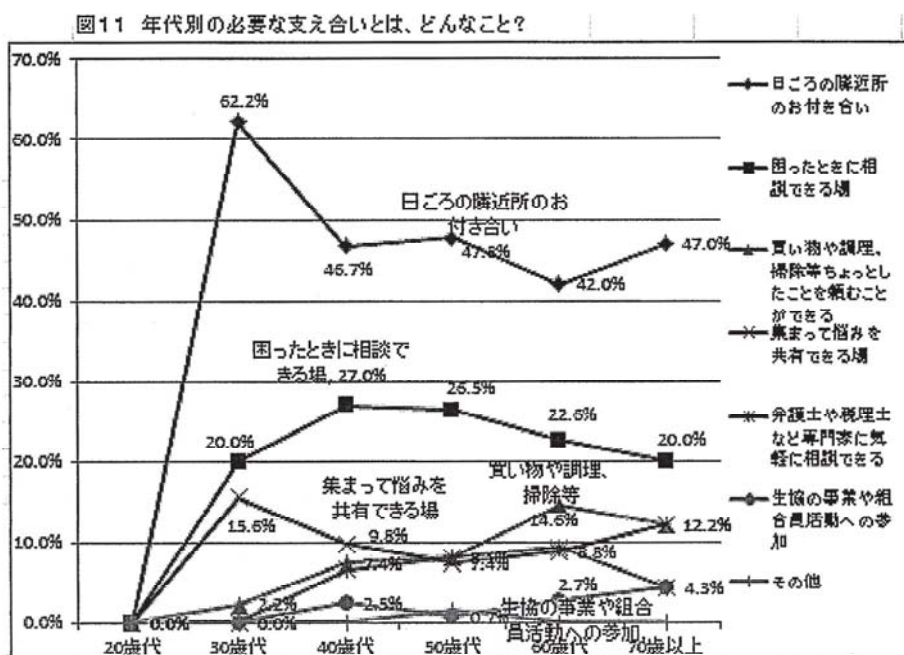


年齢が高まるに従い減少している。隣近所の方に相談する人が30歳代～50歳代で10数%であり、その他の選択肢は相談先としてはあまり挙げられなかった。家族を相談相手とする人が多いものの、60歳代以上では子どもと同居する割合は高くなく（60歳代での非同居世帯56%、70歳代非同居世帯82.4%）、70歳以上では家族を相談相手に挙げていない人が半数にのぼる。また相談相手の設問に対し全回答者のなかで76人（19.4%）が「無回答」で、特定の相談相手をもたない人が2割もあることへの対応が必要に思われる。

エ 地域での支え合いが必要と思われる方は、どんなことができるとよいと思いますか。

地域での支え合いが必要とする回答は（図11）、各年代を通して90%以上あったが、その支え合

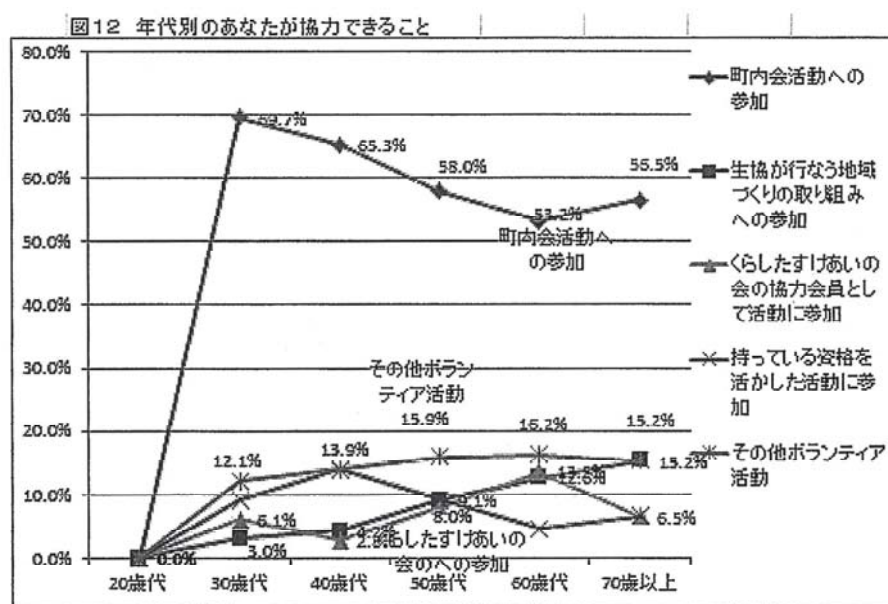
いの内容として、どんなことが期待されるについては（有効回答305人）、①日ごろの隣近所の（あいさつなど）お付き合い99.3%、②困ったときに相談できる場49.5%、③買い物や調理、掃除等ちょっとしたことを頼むことができる22.6%、④集まって悩みを共有できる場21.3%、⑤弁護士や税理士など専門家に気軽に相談できる15.1%、⑥生協の事業や組合員活動への参加4.9%、⑦その他0.7%の順となった。この回答傾向は、年代毎で大きな差異はな



かった。“できるとよい”こととして「日頃の隣近所のお付き合い」が半数近い支持を得たが、それがどの程度実施出来ているかは、今回の調査では確かめられなかったものの、自由記入欄などからは、必ずしも“出来ていて大切”とは言いきれず、そこには“できると良いが…”という気持ちを読み取ることができる。

オ 安心して暮らせる地域づくりのために、あなたが協力していただけることはありますか

それでは、あなた自身が協力可能な支え合いの内容とは？の設問には（図12）、「町内会活動への参加」が年代を超え共通して多く選択されており、とくに30歳代では70%を占め、他の年代でも50%以上が選択



している。

そのほかの協力内容では、とくに多いものはないが、ボランティア活動への参加意欲が各年代で10%を超えており、60歳代では16.2%がボランティア活動に協力できると回答している。生協の地域活動やくらしのすけあいの会の活動への参加意欲も50歳代、60歳代とわずかであるが増加しており、こうした年代の人々の新たな参加をどう迎え入れることができるかは、ボランティア団体の課題といえる。

⑥要介護者の有無と支え合いの必要性

地域の支え合いの必要性については、要介護者の有無に関係なく、高いことが確認できた(図13)。

また必要な支え合いの内容についても、要介護者の有無はほとんど影響がないことが確認できる(図14)。

図13 要介護者の有無と支え合いの必要性

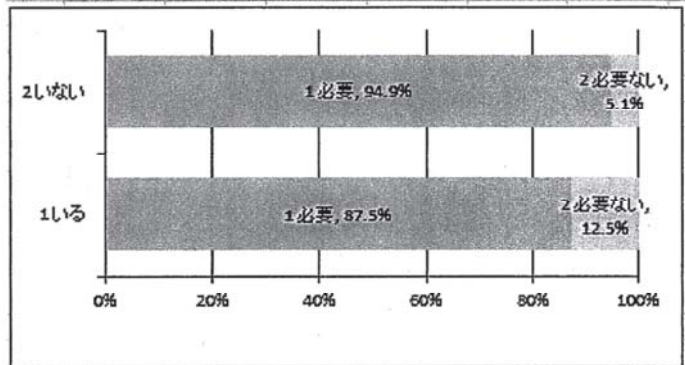


図14 要介護者の有無と必要な支え合いとは、どんなこと?

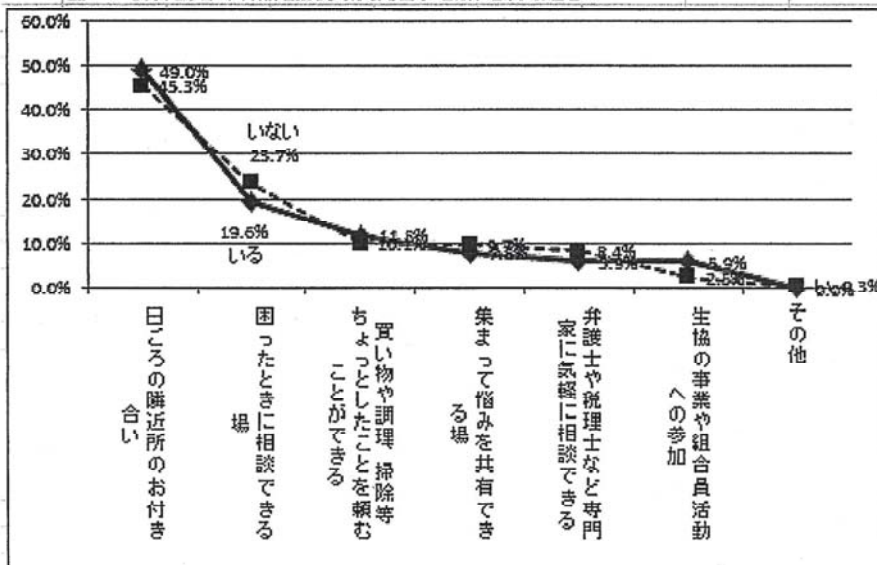
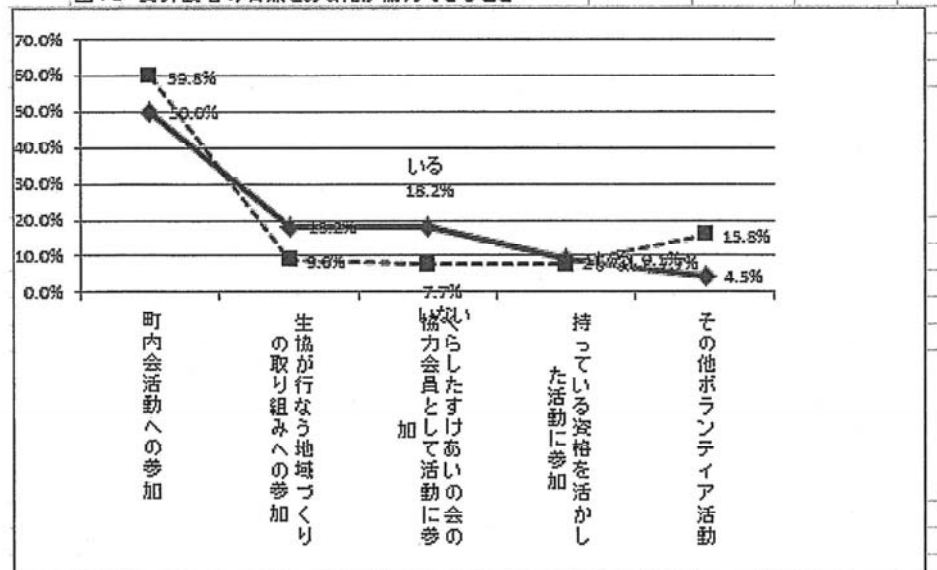


図15 要介護者の有無とあなたが協力できること



支え合いへの協力に関しては、要介護者をもつ回答者の方が、生協活動への協力などに関し、やや高めの回答となった(図15)。